



コロナ禍以降のマレーシア ～変わったうつ病への認識と対策～

マレーシアでも2020年初頭から新型コロナの感染が深刻化しました。2023年1月現在は収束の兆しが見えてきています。他国と同様にマレーシアでもコロナ禍で変わったことや変わらなかったことがあります。しかし、「うつ病」への認識が変わってきているのが注目されます。

新型コロナ感染の背景

マレーシアでの新型コロナウイルスの感染拡大は、2020年2月末に数日間行われた宗教イベントがきっかけでした。

この有名なイベントは、イスラム教徒間のきづなを高めるため、クアラルンプール近郊のモスクで国内外各地から1万4000人以上が寝食をともにするものでした。

ところが、この参加者の中に感染者が複数おり、大規模集団感染に発展。結果的に参加者のうち3375人が集団感染し、34人が死亡。また、感染した参加者は何も知らずに帰宅したため、国内中にウイルスが飛び、同年5月中旬の時点での全国の感染者約6000人のうち48%がこのイベントでの二次感染者となりました。それだけではなく、近隣諸国からも1500人ほどがこのイベントに参加していたため、マレーシアから東南アジア各国やインドにまでウイルスが飛び火したのです。

マレーシアではこのイベント後に感染が急増し、政府は同年3月18日に「活動制限令(MCO)」を発令。これは経済活動の全面停止、移動の制限、出入国の禁止など厳しい措置となりました。段階的に緩和されていったものの、2021年11月までこの制限令は続いたのです。

MCOの結果、多くの人が失業しました。2020年5月単月の失業率は過去最高の5.3%を記録。2020年通年も4.5%、そして2021年の失業率も4.6%を記録しました。外出が制限されたうえ、感染すれば2週間の強制隔離。仕事があっても在宅勤務によるストレスで多くの人たちがうつ病になり、本人や家族らが「何かおかしい」と気づき始めたのです。

うつ病患者が増えても

これまであまり精神面についてマレーシアでは注目されませんでした。もともといろんなことを陽気に考える人も多く、精神疾患は「麻薬中毒者などごく一部に限られる」との認識が強かったのです。うつ病を含めた精神疾患についてはタブー視もされてもいました。

ところが、パンデミックに入ってうつ病になる人が続出。保健省によると、2020年3月から2022年9月までの間に政府の「心理社会的支援ヘルプライン」には30万7673件の電話があり、そのうち22万7713件(74.3%)が慢性的ストレス、うつ、不安による精神的支援とカウンセリングを求めるものだったといいます。メディアで大きくうつ病について取り上げられることが多くなり、さらに有名人のうつ病の告白も周知させる結果となりました。このため、確実に以前よりうつ病への認識が変わってきたといっていいいでしょう。

日本ではうつ病にかかる人は多く、心療内科に連日多くの方が受診に訪れます。しかし、マレーシアではそもそも心療内科というクリニック自体がありません。先進国では人口1万人にあたり1人の割合で精神科医がいますが、マレーシアでは10万人に1人。その精神科医は大きな病院にしかいないのが実情です。これまでいかにうつ病患者がいなかった証左でもありますが、増えゆくうつ病患者への対応が迫られました。

政府が対策に本腰

こういった状況のなかで政府は本腰を上げて対策に乗り出しました。

まず、まだ実現はしていませんが、大きく変わろうとしているのは刑法です。

実は、マレーシアでは自殺未遂は犯罪になります。これまで政府は自殺未遂者の数字を発表していません。ただ、自殺者数はパンデミック前は年間あたり数百人だった一方で、2021年は前年比81%増の1142人を記録しました。これはうつ病とも関係があると言っていいでしょう。

増えゆく自殺者がいる一方で、未遂者も相当数に上るとみえます。この深刻な事態を受け、保健省は自殺未遂の非犯罪化を提議しています。これはこれまでマレーシアではみられなかった動きです。ただ、非犯罪化は宗教的な要素も含まれるため、内務省が慎重に検討しています。

また、うつ病患者への取り組みとして政府は精神科医やカウンセリングの養成や施設の拡充化のため、予算を大幅に増やしたほか、保健省がメンタルヘルス全国センター(NCEMH)を2022年10月に開設。これまでメンタルヘルスへの対応については非政府組織(NGO)に頼りっきりでした。このため、NGOとの情報共有化や専門家によるホットラインの設置、メンタルヘルス・プログラムの展開、精神科医やカウンセラーの養成など定期的に活動を始めたのです。

マレーシアでの感染はだいぶ収まってきてはいますが、かかってしまったうつ病はすぐに治るものではありません。完治までには時間がかかります。政府はこういった患者に対して支援し続けていく方針です。

マレーシアでのパンデミックはデジタル化といった物理面でも社会は大きく変わってきています。一方で、精神面ではこれまでにほとんど誰も経験しなかったうつ病を本人または家族がかかったことで、認識が深まりつつあります。